

国際文化研修(インド)を終えて

1 この研修プログラム全体について

このインド研修プログラムという稀なる機会に恵まれたことを本当にうれしく思う。VPMの先生方やボランティアの方たち、その他多くの人に想像以上のもてなしをされ、戸惑う部分もあったが、やはり感謝の気持ちが強い。それぞれの授業では私たちが理解できるよう動画などを用意するなど工夫をこらしていた。慣れない食事に関しても毎回私たちに辛くはないか、大丈夫かと大変気にかけてもらった。学部見学ではそれぞれの学部が昨年よりは簡略化されたのかもしれないが、それでも立派な歓迎会を開くなど、本当に様々なことをしていただいた。細かい面では自分自身の心構えや勉強不足などで後悔も少なくないが、感謝や満足感といったものが圧倒的に勝る。このプログラムに出会うことがなければインドに行くという選択肢は私の中に現れることはなかっただろう。たとえ私たちが見たもの、学んだものがインドという国のほんの一部であったとしても、現地の地面を踏み、空気を感じ、自分自身の目で見ることができるということは何にも代え難い貴重なものである。今後もこのプログラムが続いていくとことを願っている。

2 授業について

(1) ヨーガ

これまでヨーガという名前は聞いたことあれ、どういったものなのか詳しくは知らなかった。実際にヨーガの授業を受けるまで、所謂数多く存在するエクササイズやダイエット方法の一つという印象が強かった。しかし、実際にヨーガの授業を受けてみるとただのエクササイズではなく、それぞれ体の特定部位に作用するように考えられている代替療法的側面を知ることができた。特に肺活量を増やすエクササイズは印象的だった。

(2) ヒンディー語

出発前に事前学習として基本の母音を勉強していて本当によかったと思った。現地に行ってから一から始めることになっていたら授業に遅れが発生してプログラムに予定されていたものがなしになっていたかもしれない。そんな事態が起こらなかったことは幸いだ。50音語の大本がヒンディーであったこともあり、母音も子音も形を覚えるのはそこまで難しいものではなかった。ヒンディー語の授業を受け一週間を経った頃には、店の看板に書かれている文字がなんとなく読めるようになっていた。ケンタッキーフライドチキンのKFCという文字がヒンディーで書かれているものを見て、ああ、KFCと書いてあるな、とすんなり理解できてしまった時の衝撃は今でも忘れない。

(3) 英語

お題が書かれたくじを引いて、そのお題にそった内容をスピーチするというアクティビティや二人でペアになりお題に従いコンバセーションをすることをいった、実践的なアクティビティはとても良かったと思う。文法に関して言えば、皆これまでに基礎は学んできているのもっと最初からこのようなスピーキング中心の内容にしていけば、より授業としての価値が高まったのではないだろうか。

(4) 経済・経営

日本とアメリカの経済体制の比較を中心とした話や今後の世界経済についての話が多かったように思う。時間が足りなかったこともあるが、もっとインドに注目した部分を聞きたかった。インド国内の成長産業やどのような物の需要が高まっているのか、スマートホンの需要とその市場の話なども聞けたら面白かっただろう。講義内容そのものは本学で開講されている国際経済の授業である程度基礎は学んでいたため、理解はできた。英語のスライドに日本語の訳文を付けるといった配慮もあり、専門用語であっても分かりやすいものになっていた。

3 文化交流プログラムについて

伝統的な踊りや楽器の演奏をすることができるというのはアドバンテージがあるなと強く感じた。所謂自国のアイデンティティの表現技法としてはこれ以上ないものが伝統芸能だと思っている。そのため、研修に参加したメン

バーの中にも誰か日本の伝統芸能に通じている人物がいればよかったと思ってしまう。VPM の発表はどれも素晴らしいものばかりでどのパフォーマンスにも拍手を送ったが、正直なところ、VPM 側の演技ばかりになり文化交流の交流というところまで至ってはいなかったように思う。せめて日本の歌だけでも披露できるようにしっかりと練習すればよかったという後悔の念がある。

4 遠足について

(1) ムンバイ

生憎天気は曇りだったが、ムンバイ観光は最高だった。ムンバイの街中ではターネでは見かけることのなかった各国から訪れた観光客がいることに感動のようなものを感じた。まず向かったのは Gateway of India だ。広場に入る前に厳重なセキュリティーチェックが行われていることに驚いたが、後々引率の Agarkar 先生の話を知ると 2008 年に爆破テロが行われたとのこと。そのため、厳重な警戒態勢が敷かれているようだ。Mumbai だけでなくインドの象徴とも言える Gateway of India を破壊されてはたまったものではないだろう。周辺にはインドを代表する財閥 TATA が建てたタージ・マハル・ホテルやシヴァージーの銅像など同じく歴史的にも象徴としても重要なものばかりが集まっている場所だった。

お昼を挟んで次に向かったのは Gandhi の家、Mani Bhavan である。Gandhi が仕事をしていた部屋や Gandhi に関する蔵書や資料などが数多く保存されていた。一番興味深かったのは 3 階の一室に並べられた彼の人生の変遷を模したジオラマである。一つ一つに説明書きがされており、日本の授業では習わなかった彼の人生に起こった出来事を知ることができた。時間いっぱいジオラマを見て回ることができて満足した。

最後に訪れたのは Nehru Center と呼ばれる場所。目的はそこで行われている展示会だった。インドの成り立ちが紀元前のころから現代に至るまでを巨大なパネルや模型を使い展示されていた。あまりにも情報量が多く、全てを見ることはできなかった。しかし、古代の遺跡が紹介されているあたりはとても興味深く、行ってみたいと思うような遺跡の写真もあった。

この観光で最も良かったのは Mani Bhavan である。もう少し Gandhi について調べてから行っていたらもっと面白かったかもしれない。この日はインドでの研修期間で一位、二位を争うほどの価値のある 1 日だった。

(2) Karla Caves

Karla Caves がある地域そのものがかなり標高の高い所にあり、涼しかったことがとても印象に残っている。ムンバイの渋滞を抜けて来る際の暑さが堪えていたのだろう。Karla Cave までは段差の高い階段が続いていた。階段の両脇には様々な店が立ち並んでいた。仏教遺跡がある場所であるにも関わらず店先で売られているのはヒンドゥー教のお供え物であるモダックがほとんどであったことは面白かった。遺跡のすぐ側にヒンドゥー教の寺院があるからだろうか。

Karla Cave は石窟寺院と呼ばれる古代に岩を削り、くり抜いて造られた仏教寺院の一つである。その昔、およそ紀元前 1 世紀頃に仏教徒が生活していた場所とされている。実際に足を踏み入れてみると、その保存状態の良さに驚いた。入口に造られていた象や人型の彫像は破損部位が大きいものが多かった。しかし内部は彫刻の施された柱が等間隔に並び、その最奥にあるストゥーパの保存状態も良くとても美しかった。こういった遺跡や世界遺産などに興味があったので Karla Cave に行くことができ、本当に良かったと思う。

5 ボランティアについて

ボランティアについては責任感が強いのだろうなというのが私の印象である。最初は打ち解けられるか不安があった。私たちの安全面を考慮しての事だとは思いますが他の生徒との接触をなるべく控えるよう言われた。一方で食事などの不慣れな面では細やかなサポートをしてもらった。しかし、どこか余所余所しさもあったように思う。ボランティアの方々を宿泊先に誘い、一緒に食事をする機会があったが、この時ようやくお互い本音を言えるようになり、それまであった隔たりのようなものが解消された。お互いが学生らしい恋愛の話題や兄弟、家族についてなどの話をするようになった。この食事会のようにお互いが近づける機会がもう少しあれば研修期間中にもっと深い関

係を築けたのかもしれない。ともあれ、帰国してから一か月以上経つが何人かのボランティアの面々とは連絡を取り合っている。この貴重な友好関係はこれからも大切にしていきたい。

6 その他（とくに来年度の参加者にとって参考になること、プログラムの改善など）

まず、持ち物として持っていくべきだと思ったのはトイレットペーパーである。インドの慣習ではトイレットペーパーはあまり使われないため大抵の場所には設置されていない。特に女性は毎回使うものなので持っていったほうが良いだろう。ポケットティッシュという方法もあるが、これはとても消費が早いのでやはりトイレットペーパーを持っていくことを勧める。1ロール持っていけば役に立つことは間違いない。

次に重要なのは予備知識だと思う。行く前にある程度インドという国について知っておく必要がある。私は外国語学部であり専門も英語だったためインドについて詳しいことは知らなかった。そのため、このプログラムに応募しようと決めた時から外国語学部の専門科目で開講されている南アジア論という講義を受講することを決めていた。そして春学期中にある程度インドについて勉強し、夏休みに研修を迎えた。現地では実際に講義で習った浄、不浄の考えが必須だと体感する出来事も起こったので、しっかりと事前に知識を備えて行くことをお勧めする。

細かい改善点についてはすでにそれぞれの項目に書き記してあるのでそちらを参考にしていきたい。